



榴岡図書館だより

発行
令和6年3月1日
第24号

このコーナーでは、
榴岡図書館スタッフ
の「Favorite(お気に入り)」な作品や
作家を紹介します。



『ひみつのしつもん』

私が紹介する岸本佐知子さんのエッセイ集『ひみつのしつもん』は、雑誌「ちくま」の連載を書籍化したもの。どの話も読みやすく、くすっと笑いがこぼれたり、つぼにはまって涙が出るほど笑ってしまったり。とにかく、日々の暮らしで疲れた脳に刺激を与えてくれる本だ。もし、「電車で読むのが危険な本」選手権があったなら、まちがいなく「笑いが止まらなくて危険で賞」にノミネートされるだろう。読み終えて「あー楽しかった」と思う一冊である。

中でも、私が大好きなのは「ぬの力」。一度食べると病みつきになる<悪魔の食べ物>の“又テラ”の紹介から始まるのだが、岸本さんは語の先頭に来る「又」の音は破壊力があると言う。“又レエフ”“又ルハチ”“ジョン・健・又ツツオ”などの人の名前はどれもただならぬ妖気が漂っている。一文字で横溝正史の世界に引きずり込むような“鶴”(ぬえ)、夜と黒の枕詞“ぬばたま”の魅力、さらに、理科で習い強烈なインパクトを残した“ヌクレオチド”を挙げ、すべては「ぬ」の呪術的な力のなせるわざだと続ける。しまいには「ぬ」はエイリアンが息を殺して体を丸め、「ぬ」に擬態している姿であり、世界征服をめざしているのでは？と壮大なストーリーを展開する。岸本さんの脳内では、想像力、空想力が日常を超えて果てなく続き、ますます感度を増し、さらに高みを目指す。そして、きれいな“落ち”とともに日常に戻ってくる。どこか、昭和を感じさせるところや、自虐的な話にも、私は共感を覚える。



『ひみつのしつもん』

岸本佐知子／著
筑摩書房
2019.10

世知辛い世の中で、一服の清涼剤ともなり得るこのエッセイ。笑いがもたらす幸せホルモンに包まれ、リラックスしてみたいかがだろうか。

榴岡図書館 山根 彩子

☆こちらもおすすめ☆



- 『ねにもつタイプ』岸本佐知子／著 筑摩書房 914 キシ 2007.1
- 『掃除婦のための手引き書』ルシア・ベルリン／著 岸本佐知子／訳 講談社 933 へ 2019.7
- 『内なる町から来た話』ショーン・タン／著 岸本佐知子／訳 河出書房新社 726.6 タ 2020.8
- 『もりあがれ！タイダーン』ヨシタケシンスケ／著 白泉社 726.6 ヨ 2023.7

★榴岡図書館下半期イベントのご報告★

9月3日～11月5日までの毎週日曜日

◇榴岡公園社会実験◇

「ブックトレード&ワークショップ」

秋風の涼やかな日曜日

本をめぐる楽しい時間を過ごしました。



ワークショップの作品

ブックトレードの様子



10月28日(土)

◇としょかんたんていだん◇

秋の子ども読書フェスティバル行事

探偵になった子どもたちが

図書館のクイズを楽しみました。

◇押し本! &本の福袋◇

○押し本! 6月～

利用者さんからおススメの本を募集し、
冊子にまとめました。現在も配布中!

○本の福袋 1月5日

今年も初日に65袋貸出しました!



みやぎの・まつりの様子

11月5日(日)

移動図書館 ひろせ号→

←ぴっくぱーん



発行: 仙台市榴岡図書館

指定管理者: 丸善雄松堂株式会社

〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡 4-1-8

パルシティ仙台 4F 電話 295-0880



榴岡図書館HP



仙台市図書館HP



仙台市図書館
Twitter